

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 10月 31日
- 事業名 : ひきこもりと社会資源との架け橋となる事業
- 資金分配団体 : 大阪府人権協会
- 実行団体 : ウィークタイ

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
役所・町役場の担当部署とのアポと今後の相談	定量的：北摂地域の自治体を網羅できているか	北摂地域の自治体すべて		役所との連携がネガティブな要素となり得るため、事業途中の評価の中でこれを行わない事とした。	4
役所・町役場の担当者との定期的な情報交換	定量的：「定期的に」できているかどうか 定性的：ケース会議まではいかずとも現状の課題を共有できているか	最低月に1度は情報交換を目的としたやり取りを行い、連絡チャンネルが確立されている		役所との連携がネガティブな要素となり得るため、事業途中の評価の中でこれを行わない事とした。	4
短期アウトカムの定性的・定量的指標を満たせそうな支援機関とのアポと意見交換	定量的：短期アウトカムの目標値30を満たせるだけの行動数	10	2023年 3月	刑事事件に発展するトラブルや、人権協会側からの事業実施の停止要請などがあり、止まっていた。これから動き始めるところである。	3

短期アウトカムの定性的・定量的指標を満たした支援機関との定期的な情報交換	定量的：「定期的に」できているかどうか 定性的：ケース会議まではいかずとも現状の課題を共有できているか	最低月に1度は情報交換を目的としたやり取りを行い、連絡チャンネルが確立されている	2023年 6月	刑事事件に発展するトラブルや、人権協会側からの事業実施の停止要請などがあり、止まっていた。これから動き始めるところである。	3
本事業があることで孤立から免れたと実感のできる相談窓口の開設、自助会などの開催	定性的：孤立から脱したと実感できることを前提に、不安を感じずその場に存在することができるか	調査をして実態をつかみ、定性的指標を満たしていなければ改善して指標を満たしている	2022年 6月	引き続き継続し、数を増やしている。	2

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
3.課題がある
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
新型コロナウイルス感染症の拡大を理由に居場所事業を中止したり規模を縮小したりすることなく、本居場所事業にはそれらを考えるよりも大事な意味があることとともに広く周知し継続した。

## ③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）
- 2.広報制作物等
- 3.報告書等

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／ 外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	全て		ウィークタイ・代表理事
内部	全て		ウィークタイ・監事
外部	新たな発見課題		
外部	居場所事業		

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える 変化の主体	指標	目標値	達成 時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
北摂地域において、本事業 団体が要支援者たるひき こもり当事者・ひきこもり 経験者と支援とのマッチ ングに使える手札となる 支援機関の数が質・量共に ポジティブな状態になる	定量的指標：アクテ ィブな状態にあり支 援と繋がる必要のあ るひきこもり当事 者・経験者に即応で きる支援機関の数	北摂地域で 30 か 所以上 + 全自治 体役所の担当課	2022 年 6 月	現場活動が停滞したことによって、積極的な連絡や交流が 困難な状況になっていた。参加者とのトラブルが一定地点に 落ち着くまでは動きが取りづらいが、その時期が来れば直ち に動ける体制を構築している。

<p>北摂地域において、本事業団体が要支援者たるひきこもり当事者・ひきこもり経験者と支援とのマッチングに使える手札となる支援機関の数が質・量共にポジティブな状態になる</p>	<p>定性的指標：マッチング先に相応しいかは支援の質と相性により、利用は当事者の判断に委ねられるべき。そのため支援機関と繋がったがために傷つくような対応をしていないかで判断する</p>	<p>上記目標値の団体と相互に何を行っているのか理解し合っている状態となり、定期的に情報交換が行われている</p>	<p>2022年 6月</p>	<p>現場活動が停滞したことによって、積極的な連絡や交流が困難な状況になっていた。参加者とのトラブルが一定地点に落ち着くまでは動きが取りづらいが、その時期が来れば直ちに動ける体制を構築している。</p>
<p>本事業による相談者が、孤立したままだった状態から、孤立を脱したと実感でき、その実感が短期間ではなく長期間続く状態になる</p>	<p>定量的指標：アンケートの有効回答のうち、定性的指標も満たすもの</p>	<p>100以上</p>	<p>2022年 6月</p>	<p>アンケート調査による定量調査よりも、インタビュー調査等により質的に明らかにすべき課題であるため、これを行っている。 事業実施により孤立感の低下は確認できるが、現状では長期間の評価ができないため、経時的な聞き取りを続ける必要がある。</p>
<p>本事業による相談者が、孤立したままだった状態から、孤立を脱したと実感でき、その実感が短期間ではなく長期間続く状態になる</p>	<p>定性的指標：「本事業がなければ孤立したままだった」というような本事業の必要性が示される声が寄せられる状態</p>	<p>アンケートを義務感とサービス精神で書いていない状態(孤立への回帰の恐怖による自縄自縛になっていない)</p>	<p>2022年 6月</p>	<p>事業実施により孤立感の低下は確認できるが、現状では長期間の評価ができないため、経時的な聞き取りを続ける必要がある。</p>

② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	<p>長期アウトカム達成のために考慮しなくて良い短期アウトカムがあることや、最適化すべき短期アウトカムがあることを発見している。</p>

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	当事者団体が担った本事業が実際に運用された中で、当事者支援の面でどのような機能・役割を担ったか	<p>参加する当事者に対して、孤独感の低下や日々の喜び等のポジティブな感情の生起という点において、極めて大きな効用があることを、参与観察及びインタビュー調査から明らかにしている。されている。</p> <p>一方で、事業実施に際しての各種トラブルにより、参加者が体調を悪化させる、ないし心労の負担をかけさせてしまい、事業から足が遠のくということが同時に観察されている。</p>	<p>事業そのものと、事業実施に際して生じた各種の事象、及び周縁効果を切り分けることは現状の評価手法では困難であった。課題点の具体化とより細かな抽出を進めるためには、調査対象者と今以上に人間関係を築き上げた上でのインタビュー調査が必要である。</p>
実施をとおした活動の改善、知見の共有	社会資源の空隙を担えているか。当事者団体としての役割を果たせているか。	<p>必要とされているサービスであるが、社会に提供者が居らず、空隙を捉えていると評価できる。一方で、計画遅滞から実施が伴っていない部分があり、期待されている役割を完全には担いきれていない。</p>	<p>遅滞なく実施するために必要な資源を確保し、着実に履行していくことが求められている。またアウトカム達成のためには、資金分配団体（及びその担当職員）と抱えている各種トラブルについても早々に妥結する必要がある。</p>

<p>組織基盤強化・ 環境整備</p>	<p>本事業が大きく展開するにあたり、職員やメンバーに過負荷がかかっていないか。現場の当事者に真摯に向き合うための余裕があるか</p>	<p>関係者に過負荷がかかっている。現場において当事者に真摯に向き合う余裕がそのために失われている現状を認める。</p>	<p>刑事事件に発展する参加者トラブルや、そこから生じたハレーション、また資金分配団体とのトラブル、JANPIA とのトラブルによって、多くの関係者が疲弊している。事業実施において本来であればトレードオフすべきでないものが、トリアージ的にそのように扱われている部分を確認している。参加者トラブルについては相手方次第の部分があり、コントロールの余地がほとんど無いと思われるが、資金分配団体や JANPIA とのトラブルについては、事業関係者が何より重要な点はアウトカムであることを共有し、妥結点を見出すことが早急に必要である。</p>
-------------------------	---	--	--

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

当団体が行う広報や募集案内ではなく、直接の受益者にはならない人づてに評判や案内を聞いて繋がった参加者によって、活動の幅が広がる等のブレイクスルーが生じることがままあった。事業の周知に際してはこの視点を持ち、直接の受益者以外に対しても広くアプローチすることが望ましい。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

トラブルといった不測の事態によっても、繋がりが合える人はいる。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li> <li><input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	<p>資金分配団体とのトラブルにより、事業計画及び予算計画の変更作業を停止させられることとなり、本書面を提出時時点で実際の事業実施と提出している計画との間に乖離が認められる。現在実施している事業を直ちに計画に反映する必要がある。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

資金分配団体とのトラブル、及び JANPIA とのトラブルを早々に妥結する必要がある。  
それと並行し、今日まで変更を反映することができていない事業計画及び資金計画を修正・反映し、最終年度のアウトカム達成に向けた事業実施に集中できる体制を整える必要がある。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）